



学校だよりNO23

令和4年10月14日

児童数 483人

薫っ子Ⅱ



文責 校長 古川 次男

互見授業を通して

子どもたちが学校で過ごす大部分の時間は、授業時間です。それほど、学校において授業は大切なものです。私たち教職員は、この授業の質を高めるため、日々努力していると言っても過言ではありません。昨年度より、1人1台のタブレット端末が児童に行き渡りその効果的な活用についても、授業を通してより良い方法を模索しているところです。

本校では、お互いに授業を公開する「互見授業」を実施しています。その授業においては、右の写真のような児童の活躍する姿、喜んで学習する姿を求めて準備をし、お互いに授業を見せ合い、その成果等について事後に話合いの機会を持っています。もちろん、計画通りに授業が進むとは限りません。何が良かったのか？どうすれば良かったのか？を実際の授業を通してお互いに学び合っています。



福島県では、今年度より第七次総合教育計画として7つの施策を掲げ、その1番目に「『学びの変革』によって資質・能力を確実に育成する」ことをあげています。そのための主な取組として、「学校段階を見通した確かな資質・能力の育成」「複雑な社会の課題を主体的に解決する力の育成」「ICT活用などによる学びの変革」「創造性あふれる人材の育成」「エビデンス（根拠）に基づいた教育施策の推進」があげられています。

様々な教育活動の中で対面とオンライン、紙とデジタル等を組み合わせ、画一的な一方通行の授業等から「個別最適化された学び」「協働的な学び」「探究的な学び」へと変革し、子どもたちに必要な資質・能力を確実に育成していくことが求められています。

「個別最適化された学び」としては、スタサプの活用などはそれを代表する最たるものであると思います。自分の力にあった問題を選んで挑戦することができるわけですから、学年の枠にとらわれることなく家庭学習などでも取り入れてほしいと思います。「協働的な学び」は、グループや学級の中でお互いの良さを発揮しながら取り組んでいきたいと思えます。さらに価値ある「探究的な学び」へと、授業の質が高いものとなるよう努力していきたいと思えます。

